



2012

<http://www.city.sapporo.jp/chuo/>

野生のヒグマを 理解する



平成20年12月羅臼町で撮影

「ヒグマ」と聞いて皆さんは、どんなイメージを持ちますか？

去年は市街地にまで現れた「ヒグマ」について、正しい知識を身に付けていただくため、今月号では「ヒグマ」の生態や、私たち人間が気を付けることなどをご紹介します。

編集：中央区市民部総務企画課広聴係 〒060-8612 札幌市中央区南3条西11丁目
☎011-231-2400（内線224） Fax011-231-6539

地域FM番組「中央区だより」
ラジオカロスサッポロ（FM 78.1 MHz）毎週金曜11時30分～

人口	226,375人（前月比 -34）
男	102,558人 女 123,817人
世帯数	125,802世帯（前月比 +468）
	平成24年8月1日現在

理解する

道外の人から見た北海道のイメージには「ヒグマをペットにしている」「街中をいつでもウロウロしている」など笑い話のようなものもあるそうです。ところが、昨年、札幌市では、市街地にヒグマが出没し、笑い話では済まされなくなりました。

皆さんは野生のヒグマのこと、知っていますか？

平成20年8月標津町で撮影

人口192万人の大都市札幌ですが、市内の山や森にはヒグマが暮らしています。

人口192万人の大都市札幌で

マが暮らしています。

例年、市内の山間部などで出没に関する情報が寄せられますが、昨年、中央区の市街地にヒグマが現れたことは記憶に新しい出来事です。

市では、ヒグマが市街地な

どに出没した場合、市民の安全確保を第一に、現地調査や追い払い、市民の皆さんへの情報提供や注意喚起を実施すること、ヒグマとの共存を目指しています。しかし、農作物やごみを荒らしたり、人間を見ても逃げないなどのヒ

グマは、捕獲も含め、有害鳥獣として対応する場合もあります。

皆さんが市街地や公園、遊

たり、足跡などの痕跡を発見した場合は、110番に通報もしくは最寄りの交番へ連絡してください。

これまでも毎年数件、ヒグマの目撃・痕跡の通報がありました。昨年は、ここ数年で突出した件数となりました（グラフ1）。月別での状況を

みると、10月に非常に多くの情報^が寄せられました（グラフ2）。

どの辺りで出没したのか、痕跡があつた場所を地図で示しました（下図）。盤溪周辺の山を中心にヒグマが行動していることが考えられます。これからの時期、この周辺での登山や山菜採りなどに行く場合は、ヒグマに遭遇する可能性があるので、十分気を付けてください。

ヒグマの生態

日本では、北海道にのみ生息する、国内で最も大きな陸上動物です。

成獣の体重と体長

雌^メ雄^オ
100 150
))
200 400
kg kg

約 約
150 200
cm cm

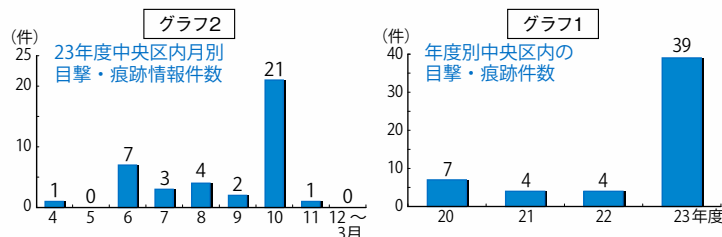
寿命は20年ほどで、

4歳以上に
なると繁殖
が可能な体
になり、知
恵も付き、
自ら人間に



岡山動物園「とわ」

近づくことはないと言われている。



▼地図：23・24年度の痕跡情報があった場所（●23年度、✕24年度：8月16日現在）



雌は、冬眠中に子どもを産み、子グマが2歳ぐらいになるまで一緒に行動しています。この時期の母グマは、子グマを守るため非常に敏感で攻撃的な面が強く、遭遇したときは注意が必要です。逆に子グマは、好奇心旺盛で人を恐れない場合があります。

一概にはいえませんが、子グマは、母グマと一緒にいることが多く、一頭で目撃されているヒグマは、親から離れたばかりの幼いクマが多いのではないかと想像されます。

ヒグマは雑食性で、サゼンソウ、フキ、クルミ、ドンゲリなどの植物のほか、アリやザリガニ、場所によつてはサケ、最近では、狩猟や駆除によるエゾシカの死体などの動物も食べています。また、嗅覚に優れ、においが強いものを好むようです。さらに、学習能力が高く賢い動物です。

狩猟の技術が高くなく、道内の他の野生動物より俊敏性に欠けるため、生きている動物を積極的に狩ることは少ないようです。



円山動物園「とわ」

ヒグマの行動習性

昼夜を問わず行動しますが、基本的には明け方・夕暮れ時に活発に行動すると言われています。非常に慎重なので、人を避けるため夜間に行動することもあります。

行動範囲は、雄数百平方km、雌数十平方kmで、雌のほうが一定の地域に落ち着いている傾向があります。

ヒグマにとって「人間は怖い動物」という認識が、親子へ受け継がれていると言

われています。しかし、近年はそういった認識も薄れてきているのではないとも言われています。

「ヒグマ」と「人間」

単純にヒグマと人間のすみ分けをすると、市街地は人間の生活領域となり、野山はヒグマの生活領域となります。

ヒグマの生活領域に立ち入る際は、人間が注意する必要があります（下記参照）。

【問い合わせ先】

目撃・痕跡情報や住民への注意喚起に関すること

中央区総務企画課 地域安全担当係

☎231-2400

HP <http://www.city.sapporo.jp/chuo/kuma/index.html>

市の対策などに関すること

環境局みどりの推進課 熊対策調整担当係

☎211-2522

気を付けよう!!

ヒグマを市街地に呼ばない

ヒグマは、一度においや味を覚えると、その食べ物を求めて市街地に来ることもあります。

- ・山へ入ったときには、食べ物のごみを捨てたり埋めたりせず、必ず持ち帰りましょう。
- ・生ごみを野外に放置したり、夜間にごみステーションへごみを出したりしないようにしましょう。
- ・外に漬物を漬けたたるを置いたり、魚を干したりすることなどは控えましょう。

ヒグマに遭わない

登山や山菜採りなどで入山する場合、特に注意が必要です。

- ・ヒグマ出没により立入禁止とされた区域には絶対に入らないでください。
- ・ヒグマに関する注意喚起看板などを確認するとともに、単独での入山を避け、声や鈴などで音を出し、周囲に十分注意しながら入山してください。
- ・ヒグマの足跡やフンらしきものなどを見つけたら、周囲に潜んでいる可能性があるため、引き返しましょう。

ヒグマに遭ってしまったら

ヒグマと人間が周囲に注意を払っていても、鉢合わせすることがあります。

- ・大声を出したり、走って逃げたり、石を投げたりすることは、絶対にしてはいけません。
- ・背中を向けて走ってはいけません。ヒグマは本能的に追いかけてきます。
- ・子グマを見たら、近くに母グマがいる可能性が高いので、その場から立ち去りましょう。
- ・多くの場合は、ヒグマが先に立ち去ります。ヒグマの移動する方向を見定めながら、静かに立ち去りましょう。



「ヒグマ」は身近にいる

北海道には、ヒグマが生息しており、札幌市の周辺の野山であっても例外ではないということをあらためて認識していただくことが大事です。また、不慮の事故を避けるため、ヒグマの生活領域を侵さないように人間が意識することも大切です。

しかしながら、人間の生活を脅かすヒグマが現れた場合は、厳しい対応をしなければならぬこともあります。

意外と身近な存在であるヒグマについて、正しい知識を身に付けることが、ヒグマとの事故を未然に防ぐことにつながります。

共存という理想を実現するために…

協力…ヒグマについて



北海道大学
獣医学研究科
つばた としお
坪田 敏男教授

協力…市の状況について



市環境局みどりの推進課
熊対策調整担当係
きくuchi まさひろ
木田 慶之さん

リーフレットは
区役所で配布中▼



区役所関連施設

市コールセンター ☎222-4894

中央区役所
☎231-2400(南3西11)
中央保健センター
☎511-7221(南3西11)
中央区土木センター
☎614-5800(北12西23)
中央区民センター
☎271-1100(南2西10)
旭山公園通地区センター
☎520-1700(南9西18)

大通公園まちづくりセンター
☎251-6353(北1西9)
東北まちづくりセンター
☎251-8119(北2東2)
苗穂まちづくりセンター
☎261-3669(北1東10)
東まちづくりセンター
☎241-1696(南2東6)
豊水まちづくりセンター
☎521-0204(南8西2)
西創成まちづくりセンター
☎521-2384(南5西7)
曙まちづくりセンター
☎511-0116(南11西10)
山鼻まちづくりセンター
☎511-6371(南23西10)
幌西まちづくりセンター
☎561-3256(南11西14)
西まちづくりセンター
☎561-7124(南6西13)
南円山まちづくりセンター
☎561-2472(南9西21)
円山まちづくりセンター
☎611-3367(北1西23)
桑園まちづくりセンター
☎621-3405(北7西15)
宮の森まちづくりセンター
☎644-8760(宮の森2-11)

旭山森のフェスティバル 2012



▽内容 自然観察、ロープ遊び、クラフト作り、薪割り体験、クイズラリーなど。

※札幌市平和都市宣言20周年連携事業として、記念植樹を行う予定です。

▽日時 10月8日(祝)10時～14時(受け付けは9時45分から)。雨天決行。

▽会場 旭山記念公園(界川4)内「森の家」。

▽費用 3歳以下無料・4歳～小学生200円・中学生以上400円(豚汁1杯と傷害保険代、クラフト作りなどの体験料金を含む)。

▽申込 不要。当日直接会場へ。

〔詳細〕 維持管理課公園緑化係
☎(614) 5800

中央区みんなの講演会

男女共同参画社会実現への啓発活動として、講演会を開催します。

▽内容 第一部Ⅱ講演「人は見かけ通り?」(講師・五輪橋産科婦人科小児科病院名誉理事長 丸山淳士氏)。

第二部Ⅱ中央区連合町内会女性部による活動発表。

▽日時 10月10日(水)13時開演(12時開場)。

▽会場 札幌市教育文化会館小ホール(北1西13)。

▽定員・費用 360人・無料。

▽申込 中央区地域振興課、総務企画課広報係、区内各まちづくりセンターで入場整理券を配布中。

※会場が満員の場合は、入場をお断りすることがあります。



〔申込詳細〕 地域振興課地域活動担当
☎(231) 2400(内線256)

国民健康保険料の 納付相談について

9月末は平成24年度国民健康保険料第4期分の納期限です。納め忘れたくないようお願いします。

なお保険料を納付できない特別な事情(証明書類が必要)がある方は、納付相談にお越しください。

〔詳細〕 保険年金課収納一・二係
☎(231) 2400

生ごみ堆肥化セミナー

▽内容 家庭から排出される生ごみを段ボール箱の中で堆肥化させる方法を説明します。参加者全員に生ごみ堆肥化セット(段ボール箱と基材)を差し上げます。

▽日時 10月12日(金)13時30分～15時。

▽会場 南円山会館(南9西21)。

▽定員・費用 50人・無料。

▽申込 10月11日(木)までに電話(10時～16時。日曜・祝日を除く)かファクス、Eメール(①開催日時・会場②参加者氏名③住所④電話番号を明記の上)で申し込み。

〔申込詳細〕 生ごみ堆肥化相談窓口
☎☎(621) 5318

✉ kitagomi@alles.or.jp

住宅用火災警報器を 設置しましょう

住宅用火災警報器は、全ての住宅で設置することが法律で義務付けられています。まだ設置していない方は、早めに取り付けましょう。また、すでに設置した方も、電池の交換時期などを定期的に確認してください。



なお、平成24年12月までの間、世帯主が生活保護を受給している聴覚障がいのある方には、聴覚障がい者対応型火災警報器を無償給付します。数に限りがありますので、お問い合わせください。

〔詳細〕 消防局予防部予防課
☎☎(215) 2040
(281) 8119

【みんな元気!!食育体験レストラン^{イン}食育セミナーin光塩】

※この「レストラン」は事業名です。

＜プロの技を学ぼう!親子料理教室＞

◆メニュー

- ・道産野菜たっぷり水餃子
- ・朝イカとレタスの温サラダ
- ・タピオカ、マンゴー入りココナッツジュース ほか

◆講師 光塩学園調理製菓専門学校 中国料理講師 皆上敬司氏。

◆日時 10月20日(土)10時～13時 (受け付けは9時30分から)。

◆会場 光塩学園調理製菓専門学校 (大通西14)。

◆対象 区内在住の小学生とその保護者。

◆定員・費用 16組32人 (2人1組)・無料。

◆持ち物 筆記用具、エプロン、三角巾、手拭き、上履き。

◆申込 10月3日(水)9時から電話で (ファクス不可)。先着順。



▲中央区食育マスコット「モリス」

申込・詳細 健康・子ども課 ☎511-7221



冬期間、高齢の方や身体に障がいのある方などの生活を支援するため、福祉除雪を行う地域協力員を募集します。

▽対象 区内在住の個人、区内所在の企業・事業所・団体。

▽除雪期間 12月1日(土)～平成25年3月25日(月)。

▽活動費 1世帯につき2万1千円(ひと冬)。

※平成25年3月末に指定口座に振り込みます。

▽申込 10月4日(木)までに電話かファクス(住所・氏名(名称)・年齢・連絡先電話番号、企業・団体などは代表者氏名も明記の上)で申し込み。

※福祉除雪については、全市版26ページをご覧ください。

申込・詳細 中央区社会福祉協議会
☎(281) 6113
FAX (208) 0881

福祉除雪 「地域協力員」の募集

子育て講座受講者募集

電話で (ファクス不可)。先着順。

▽内容 「心をはぐくむ子育て」。

▽日時 10月4日(木)10時～11時30分。

▽会場 中央保健センター2階(南3西11)。

▽対象 区内在住で0歳から就学前のお子さんを育てている保護者。

※受講中は、お子さんをお預かりします。

▽定員・費用 20人・無料。

▽申込 9月11日(火)9時から

電話で (ファクス不可)。先着順。

※多くの方に参加していただくため、子育て講座は年間を通して1回の受講でお願いいたします。

申込・詳細 健康・子ども課子育て支援係
☎(511) 6399

中央区社会福祉協議会 からのお知らせ

中央区ボランティア入門講座

▽内容 ボランティアに関心

のある方を対象に、ボランティアの基礎知識を学び、車いすの操作を実際に体験します(講師・NPO法人「手と手」常務理事 浅野目祥子氏 ほか)。

▽日時 9月26日(水)13時30分～16時30分。

▽会場 中央区民センター2階つどいA・B(南2西10)。

▽定員・費用 30人・無料。

▽申込 9月11日(火)9時から電話で。先着順。

申込・詳細 中央区社会福祉協議会
☎(281) 6113

けんこうフェスタ2012 in ちゅうおう

きらり輝くすこやかライフ～健康・食・子育て・介護予防～

入場無料
(一部先着制)

日時：9月29日(土) 10時～14時

会場：中央区民センター(南2西10)

▲けんこうフェスタ
キャラクター▲ポスター：北海道造形デザイン
専門学校 前角侑里さん

健康コーナー

からだとお口の健康チェック、健康相談など

食コーナー

食育パネル展、食中毒予防に
関する展示、手洗いチェック

子育てコーナー

遊びのコーナー、
絵本の読み聞かせなど

介護予防・福祉コーナー

脳トレーニング、軽体操体験、
こころの健康コーナーなど

癒しコーナー

無料マッサージ体験

屋外行事

ファミリーウォーキング(雨天中止)
大通公園にお出かけ♪

(詳細) 健康・子ども課 ☎511-7221

中央区民講座

プロから学ぶはじめての陶芸

(全6回)

▽内容 基本的な陶芸技法を
学び、楽しく陶芸を行います。▽日時 9月25日～11月6日
の毎週火曜日(10月23日を除
く) 10時～12時。▽会場 中央区民センター2
階創造の部屋(南2西10)。▽対象 区内在住か在勤の15
歳以上の方(中学生を除く)。▽定員・受講料 15人・4千
400円(材料費を含む)。▽申込 9月11日(火)～17日(祝)
の9時30分～17時に同セン
ター1階窓口か電話で(土・
日・祝日可)。先着順。※定員に満たない場合は申し
込み期間を過ぎても受け付け
ます。※応募者が少ない場合は講座
を中止することがあります。申込詳細 中央区民センタ
運営委員会 ☎(271) 1100

地区センター講座

煎茶道講座～丸盆煎茶手前～

(全4回)

▽内容 煎茶の手前を体験
し、おいしいお茶の入れ方を
学びます。▽日時 9月27日～10月18日
の毎週木曜日13時30分～15時

交通事故発生件数

	発生件数	死者数	傷者数
中央区	814 (-92)	3 (+2)	922 (-133)
札幌市	3,986 (-600)	13 (0)	4,609 (-725)

※平成24年累計・8月21日現在。
() は前年比

▽会場 旭山公園通地区セン
ター(南9西18)。

▽対象 区内在住か在勤の18
歳以上の方(高校生を除く)。

▽定員・受講料 16人・千500
円。

▽持ち物 筆記用具。

▽申込 9月11日(火)13時30分
同センター1階ロビーで受け
付け開始(電話不可)。

※開始時点で定員を超えた場
合は抽選。定員に満たない場
合は、引き続き先着順に窓口
で受け付け(8時45分～17時
(日・祝日を除く))。

※受講料は申し込み時にお支
払いください。納入された受
講料の払い戻しは原則として
できません。

※受講者が少ない場合は講座
を中止することがあります。

申込詳細 旭山公園通地区セ
ンター ☎(520) 1700



▲区役所で配布中の節電啓発パンフレット

節電します。

さっぽろの未来を
“明るく”するために

一人一人が節電の意識を持ち、行動することが大きな効果を生み出します。

できることから始めましよう。そして継続しましよう。節電にご協力をお願いします。

地域歴史講座「中央区～桑園いま・むかし」

札幌丘珠空港ビル2階に、札幌のまちの成り立ちや空港の歩みなどを写真や映像で紹介する「札幌いま・むかし探検ひろば」が昨年オープンしました。ここでは、札幌のさまざまな地域の歴史を知ろうという「地域歴史講座」を開催しており、今回は中央区桑園地区を取り上げます。

桑園の地名の由来をはじめ、変貌を遂げてきた桑園の歴史について、魅力たっぷりの話を聞いてみませんか？

◆テーマ 「桑園いま・むかし」。

◆講師 丸岡勇氏（マイタウン桑園編集委員）。

◆日時 9月23日(日)14時～15時30分。

◆会場 札幌丘珠空港ビル2階「札幌いま・むかし探検ひろば」多目的コーナー（東区丘珠町（丘珠空港内））。

◆費用・申込 無料・不要。当日直接会場へ。

（詳細） 市民まちづくり局交通計画課（空港担当） ☎211-2378

0157に御用心！

今年8月に腸管出血性大腸菌O157による食中毒事件が発生し、尊い命が失われました。
O157は「ベロ毒素」を出し、血便を伴う激しい下痢や溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症などの原因となり、死に至る場合があります。

どんなことに注意が必要？

O157は牛や豚などの動物の腸の中にいます。

・肉は、中心までしっかり加熱して食べましよう。

さらに、動物の糞便を介して野菜に付いている可能性があります。

・生野菜は流水でよく洗い、速やかに食べましよう。



75℃以上で1分以上加熱

感染が疑われるときは

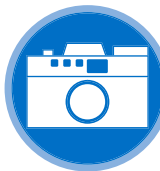
O157は感染してから3～8日で症状が出ます。下痢が続いたり、血便が出た場合には、すぐに病院を受診しましよう。

また、トイレやドアノブなどのよく触れる場所は、塩素系漂白剤で消毒しましよう。

（詳細） 健康・子ども課生活衛生係 ☎（511）7227

・調理器具もしっかり洗浄し、熱湯か塩素系漂白剤で消毒しましよう。
・調理や食事の前には必ずしっかりと手を洗いましよう。





8/6 いろいろな遊びに挑戦

旭山公園通地区センター（南9西18）において「ちびっこサマーランド」が行われ、親子連れなど320人が来場し、地域住民や札幌旭丘高等学校・星槎国際高等学校の生徒など約80人がボランティアスタッフとして参加しました。

参加者はシャボン玉遊び、ヨーヨーつり、こま回しやお手玉などたくさんの遊びを、スタッフに教えてもらいながら楽しみました。



▲上手につれるかな？

こまのひもは
どうやって巻くの？▶



7/31 「食」の大切さを勉強

中央卸売市場（北12西20）において「みんな元気!!食育体験レストラン 中央卸売市場食育講座」が行われ、夏休み中の21組46人の親子などが参加しました。

参加者は、市場内を見学したり、バランスの取れた食事やよくかんで食べることの大切さ、食中毒の予防や手洗いの仕方などを学び、調理実習ではイワシの手開きなどに挑戦しました。



▲上手に焼けました！

◀指の間や手首もきれいに洗いましょう！

8/9 桑園地区のまちづくりを体験

桑園まちづくりセンター（北7西15）において「子どもまちセン一日所長体験」が行われ、中央区などの小学5・6年生5人が参加しました。

子どもたちは桑園地区のいろいろな活動を体験するため、まずは桑園まちおこしプロジェクトが行っている蜂蜜づくりを取材。移動中には「ミニ大通・お散歩まつり」（9月9日(日)開催予定）の説明を聞きながら北4条ミニ大通（北4西11～17）を散策し、市立中央幼稚園（北2西11）では子育てサロン「8☆8プラザ」の活動を取材しました。

その後、市役所（北1西2）で行われた「子ども所長会議」に出席。取材の成果を上田市長に報告し、採れたての蜂蜜をお土産として手渡しました。



◀一日まちセン所長に任命！

まちの取材にいざ出発▶



▼任務完了！市長と記念撮影



▲どんなふうに報告しようか？



▲蜂蜜づくりについて取材中